

外国人労働者と日本語をつなぎ、共生社会へ。

外国人労働者と日本語、外国人労働者と日本社会とのよりよい関係の構築を目指し、提言や支援を行う。

外国人労働者が増加する日本社会において、日本語の壁は就労や社会参加の障壁となっています。本研究では、特に介護・看護分野の外国人労働者に対する日本語教育政策を分析し、提言を行っています。一方で、介護・看護分野で日本での長期的就労を目指す外国人労働者を、日本語学習教材の開発で支援。ウェブサイト『やさしい日本語でまなぶ介護専門用語集』などを他大学の研究者やWebデザイナーと共同開発しています。

研究代表者

布尾勝一郎

NUNOO Katsuichiro



立命館アジア太平洋大学
言語教育センター 教授

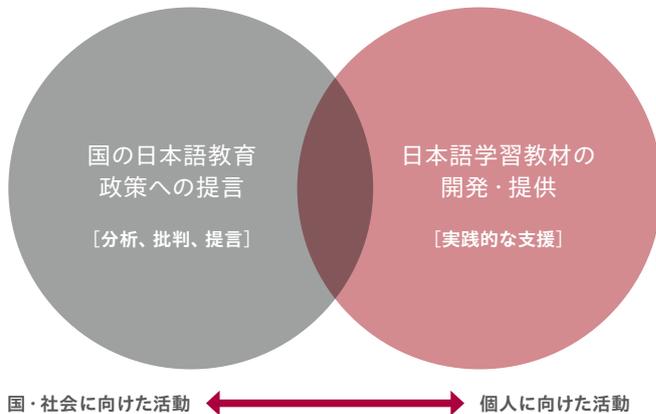
「多様なバックグラウンドを持つ人々が自分らしく生きられる社会へ、言語教育から貢献したいと考えています」

新規性・独自性 | 政策提言と教材開発という2つのアプローチで、実践的な研究と貢献を目指す。

本研究の特徴は、政策分析・提言と日本語学習教材開発という対極的な2つのアプローチを同時に進め、机上の空論に終わらない実践的な研究を展開してきたことです。政策の分析と提言では、国会会議録や厚生労働省有識者検討会、新聞記事の詳細な分析を通じて、EPA、技能実習、特定技能といった在留資格ごとの外国人介護労働者への日本

語教育に関する議論の特徴を可視化しました。教材開発では、『やさしい日本語でまなぶ介護専門用語集』を開発し、実装。対訳だけでなく介護現場特有の概念や制度も学習者が理解しやすいよう説明し、6言語対応、音声読み上げ機能も備えています。異なる専門性を持つ研究者が協働することで実現した教材です。

外国人労働者と日本語をつなぐ、2つのアプローチ。



ウェブサイト教材『やさしい日本語でまなぶ介護専門用語集』より、「嚥下性肺炎」を調べ、ミャンマー語で表示したときの例。



社会連携に向けて | 外国人労働者と日本社会のよりよい関係のために、言語教育の課題と可能性を見つめる。

本研究では、ことばにより不利益を被る人々の状況を明らかにし、その改善に、言語教育によって関わっていこうとしています。政策提言活動においては、今後も省庁担当者や他研究者と連携しながら、新たなテーマを模索していきます。介護分野の実践的な活動においては、ことばに困る外国人材を継続的に

に支援していきます。『やさしい日本語でまなぶ介護専門用語集』のさらなる多言語化や、新たなWeb学習支援リソースの開発も進行中です。また、自治体や国際交流協会と協働し「やさしい日本語」の普及活動も進めていきます。政策分析からの知見と教材開発の経験を組み合わせることで、実効性の高い提案や支援を続けていこうとしています。

